



今回の児童・生徒のコーナーでは、白浜小のお友達の商品を紹介しします。(敬称略)



6年 伊藤友密子

夕日

真っ赤に燃える夕日。

山や家
田や畑

近くに流れている川も夕焼けにつつまれる。そして私たちも赤くそめられる。

夕日を見ていると

いやなこと

かなしいこと

みんながどこかへ行ってしまふ。

友達とけんかしたいやなこと

お母さんにおこられたかなしいこと

友達が一人へったさびしいこと

先生におこられてなきたくなかったこと

さみしかったこと

いたずらをしてしまったわるいこと
友達にからかわれてくやししいこと
夕日は何も言わないが
私のなやみをみんなつつみこんで
静かにしずんでいく。

夕日は、明日もまた

わたしをやさしくつつんでくるだろう。
そんな夕日が大好きだ。



6年 梅田 美保

風よ止まれ

風が大きくなつたりをたてている。

「ピューピューピュー。」

小さなうなりもわたしの耳にとどく

まつの木などの、かふんまでも、飛びか。

私は、風の中を体をこごませて

一步、一步、歩いて行く。

今日は、一步の歩みが、とつても重い。

前に進もうとすると

風におしかえされてしまふ。

でも、ここで風にまけたら家には帰れない。

風、風よ止まれ

大風よ、止まれ

おねがい。おねがい。

風さん、止まって

風さん、私がとばされてしまふ。

ああ、少しさむけが

でも、ここでたおれたら

がんばらなきゃ、もう少しで家につく。
げんかんのドアをあけ
「ただいま」
と、どうじに、たおれてしまった。

「だいじょうぶ。」

と母のやさしい声。

お母さん、だいじょうぶよ。心配しないで。

やっと、家にたどりついた。

まどから、外を見てみると、さっきのまま、

風は、まわりの草木をゆらし

「ギーギー。」



3年 川島 信祐

日記から

「とびばこ」

体育の時間にとびばこをやりました。

ぼくは、さいしょに四だんをやってみました。

でも、なかなかできませんでした。

「しっばいしちやった。」

「またしっばい。」

「えい。」

いきおいよくとびました。

「ああ、もうすこし。」

ぼくは、さんねんに思いました。

「えい。」

「しまった。」

「うりや。」

何回も何回もつづけました。

「うりや。」

「あつ手だ。ゆびがまがってなければとべる

のに。もう少しだ。」

「えい。」

「やったあ、できた。」

できた時、ぼくはすぐうれしかったです。

そして、次は五だんのところにならびまし

た。でも、ぼくのばんが近づいた時、

「あと一回やったらおしまい。」と先生が言

いました。

「やっと四だんがとべたのに、五だんとべる

かなあ。」とぼくは思いました。

「पीー。」

とびばこをとぶ合図ができました。ぼくは、お

もいきり走りました。

「えい。」

おもいつきりやると、足はとびばこにぶつか

ったけど、ちゃんにとべました。

「やったぞ。」

「ぼく、五だんがとべちゃった。まだ、四だ

んがやつととべたばかりなのに。」すぐ、先

生に教えました。ぼくは、とびあがりたくな

つちやいました。

もつと、もつと五だんでれんしゅうして、

六だんが、「えい。」「せいこう。」となる

ようにいっしょうけんめいがんばりたいと思

います。



3年 伊藤 剛文

日記から

「このごろ思うこと」

ぼくはずっと前、

「木は、毎日何をしているのかなあ。ただ、